

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年7月20日(火)
その2

◇ 今からが 大切

[2] → [1] → [2] → [3] → [1] → [2] → [1] 平均≒1.71 人
7月1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日

移行する乱数。7月に入ってから(1～7日)の岡崎市のコロナ感染者数である。

続いて8日以降の数値は次のとおり。

[0] → [0] → [2] → [0] → [1] → [2] → [3] …平均≒1.14 人
7月8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日

単なる数値の並びではない。これは、岡崎市民が

「やるべきことを粛々と行い、注意を払って生活している」ことを表している。

対して、東京都には4回目の緊急事態宣言が発出された。五輪が迫っているとは言え、連日の前週の数値を上回る感染者数の報告という現実を見れば、しかたがないとも捉えられる。規模や人口、世帯数の違いもあり、岡崎市と東京都を比較するのは無理があるとはいえ、それでも数値は物語るのだ。

下の表は、岡崎市を基準とした場合の東京都と愛知県との比較表である。

	東京都	愛知県	岡崎市【基準】
7月現在の総人口数	1400万人	750万人	38.7万人
岡崎市を1とした時の人口比	36.2倍	19.4倍	1【基準】
<u>7/6～12</u> 1週間平均感染者数	756人	60.3人	0.86人
岡崎市を1とした時の感染者数比	879倍	70倍	1【基準】

比較表の数値を分析する。

人口比は岡崎市を1【基準】とした場合、東京都は36.2倍。愛知県との比較ならば1.86倍で、2倍以下だ。もう少し開きがあるかと思ったが、意外と少ない。微増ではあるが人口が増え続ける岡崎市。流石中核都市である。

注目すべきは新型コロナウイルス感染者数だ。7月6日から12日の平均感染者数は、東京都は岡崎市の879倍(愛知県は岡崎市の70倍)。人口比だけなら、東京都の感染者数は、「たったの31人(0.86人×36.2倍)であるべきはず」なのである。

ところが現実には879倍の756人。改めて岡崎市民の民度の高さを実感する。

しかし、慢心は禁物。子供たちが学校を離れる「今からが大切」なのである。